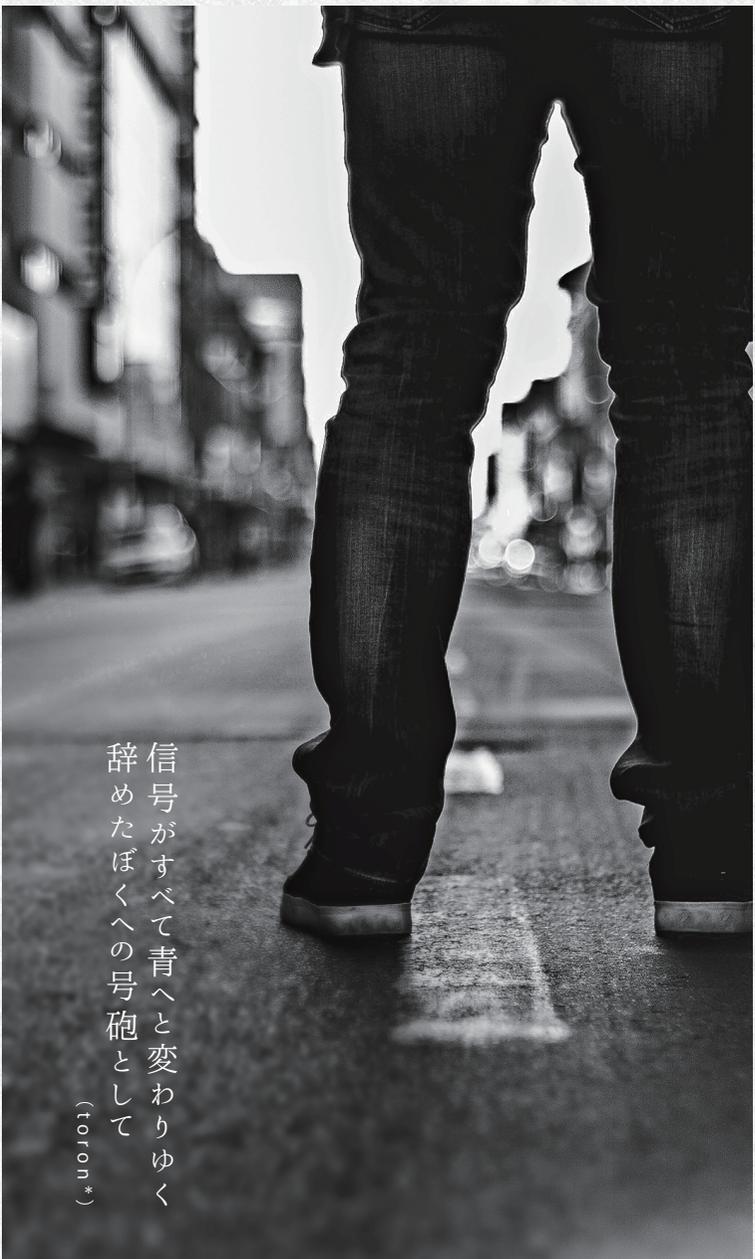


月刊
うたらば2019
7

今月のテーマ

信

なにやら世の中が騒がしいここ最近。「信用」や「信頼」について考えさせられるニュースが多い中で、
のテーマ「信」です。真面目な話から面白い話まで、
バラエティ豊かな作品をお楽しみください！



信号がすべて青へと変わりゆく
辞めたぼくへの号砲として

(toron*)

表紙フォト短歌のカラー版やバックナンバーは公式サイトにてご覧いただけます。
作品の投稿も常に受付中！詳しくはサイトの募集要項をご確認ください。
短歌 × 写真のフリーペーパー『うたらば』公式サイト：http://www.utralover.com/

🔍 うたらば

さだめなどまるで信じてない
けれど一等星のない天秤座

(大葉れい)

上の句と下の句の距離感が秀逸な作品。
「さだめ」を信じないという感情を提示し
てから下の句「一等星のない天秤座」が来
ることで主体の葛藤が浮かび上がります。
主体自身が天秤座なのでしょう。思うよう
に輝けない自分を暗い星座に重ねる。繊細
な感情が巧みに掬い取られています。

本当に月が美しかったから
メールしたのに返信がない

(もなか)

夏目漱石の有名な逸話「月が綺麗ですね」
のフレーズを下敷きにした作品。主体とし
ては何気なく送ったメールなのに、深読み
されてしまったんですね。淡々とした言い
回しが効いていて、主体のしょぼんとし
た顔が目に見えそうです。

普通科に入れば普通の人生が
送れるんだと信じてました

(西淳子)

高校にありがちな「普通科」という分か
るようで分からないコース名。大抵は「理

数科」など特別なコースとの対比で用いら
れているはずですが、文字通り読めばたし
かに「普通」を指すコースですね(笑)
そこに着目した作者の視点がまず面白かつ
たです。結句が過去形なので今はもう違う
ことに気づいているのも良いですね。

信号がすべて青へと変わりゆく
辞めたぼくへの号砲として

(toron*)

表紙フォト短歌に選んだ作品。描かれた
景の清々しさに惹かれました。仕事を辞め
て新しいスタートを切った主体の気持ち
を、奥行きと未来を感じる上の句の景の描
写が引き受けていて、明るく希望のある作
品に仕上がっています。

わたくしが冒険できぬよう母
は「信じてる」って呪いをか
けた

(風花 雫)

「信じてる」は重いですね。一度信じら
れてしまうとその意に反する行動は裏切り
になってしまう。それはまさに「呪い」で、
葛藤する主体の気持ちを想像させられま
す。冒険したい主体と、自分の近くにい

ほしい母。親と子という距離感だからこそ
の悩ましさが表れていますね。

揚げ物の袋の上にもた袋信頼
されないほうが落ち着く

(岩倉日)

コロッケなどを買うと油を吸った紙の袋に
入れた上でさらにビニール袋に入れられた
りする。そこに着目して主体の感情表現で
ある下の句に繋がったところが見事です。
「信頼されないほうが落ち着く」のは主体
独自の感覚ですが不思議と共感もあり、妙
に納得してしまいました。

信号も寂しがるうな赤だつて
みんな渡つていつちやうもん
な

(とき)

赤信号を無視して渡る歩行者に対して
「ちよっとー赤ーちよっとー」と必死に声
をかけている信号機をイメージしました。
主張を無視されることは人間に置き換える
と相当寂しいですね。信号に愛を持って
接するかどうか、という話はありませんが信
号を寂しくないためにもちゃんと守って
あげてください(笑)

もう少し信じてみようチラシには投資神託セミナーとあり

(須磨堂)

「投資神託」という誤字から経済用語の「神の見えざる手」が連想されました。神様からのお告げで利益を得られるかもしれないと思うと、「もう少し信じてみよう」という主体の気持ちもわかります。誤字があるが普通は信頼を失うものですが、それを逆手にとっているのも良いですね。

信仰の自由あなたは手を清め聖なる糠よりとりい出すなす

(紡ちさと)

糠漬けを取り出す仕事を神聖なものと捉えたところが面白い作品。手を洗い糠床からなすを取り出すという一連の所作にある儀式感に着目して、あえて神聖なものとして描いたところにセンスを感じます。下の句の「糠よりとりい出すなす」の韻律の整い方も好きでした。

思ってたよりも器がちつちやくて信じる者しか救わない神

(関根裕治)

「信じるものは救われる」を逆手にとっ

他には以下のような作品を採用させていただきました！

信頼は態度で示す真つ先に君へ差し出す星形のピノ

(千仗千紘)

信号が赤から青に変わりますあとは滲んでよく見えません

(泳二)

鯛焼きをしつぽのはうから喰むひとのやさしさなんて信じてるな

(有村桔梗)

安眠のさなかにチャイムを鳴らしたりしない神なら信じたかもな

(タキサワマジコ)

宇宙よりきらめきながら落ちてくるあなたからの誤送信メール

(春荷ちかや)

かりゆしをたつた一日だけ着てる政治家たちに不信が募る

(澤那本気子)

君からのメールが届く一度だけ言った覚えのある誕生日

(とみた律)

別れとはそういうものでありたくて「バイチャ」で結んだ漫画を想おう

(西村湯吞)

た作品。神様なら全員救えよ、という理屈も非常にわかります(笑)とはいえ世界には神様が乱立してるとすよね。神様同士も争っているような世界ですので信者を増やすためにも信じるものだけ救うようになっちゃったんでしょうね。

ですますはもう変ですねそうですね信用金庫に勤めるふたり

(深影コトハ)

二句目までの話が三句目でもう破綻しているのが微笑ましいです。付き合いたての恋人なんだろうと読みました。「信用金庫」という言葉の持つ誠実さと規模感からイメージされる「ふたり」の人柄と、上の句の掛け合いが見事にマッチしています。

確信に近づく話ができなくて打者一巡の猛攻終わる

(天野うずめ)

誰かと二人で野球中継を見ている場面でしょうか。疑問に思うことを確かめたいけれどうまく切り出せない主体。下の句の「打者一巡の猛攻」が状況の比喩にもなっているのなら、会話はしているもの大切なこと

正しさを保証されてる信号に従い歩き出すときだけは

(岡田奈紀佐)

信じてもすぐに忘れる 年末の雑誌の占ひページの厚み

(太田宣子)

また猫は宙を見ているお日さまの私信が届くのを待つように

(細川街灯)

ばあちゃんの唯一の趣味は信仰で「まず人様に」が口癖だった

(笹乃みやび)

信じない自由もあると勧誘の少女は神をかばんにしまう

(袴田朱夏)

通信簿の協調性がCだったきみだ世界を切り開くのは

(関根裕治)

何もかも信じられなくなりついに無洗米まで研げば朝焼け

(小山美由紀)

ふと見れば「ねこのひらき」になっているいのちに信じられ生きている

(千原こはき)

信じてはいけないひとを信じたしこのままそつと土足である

(木村奏菜)

とだけ聞けない一方的にやられているという読み方もできるかもしれませんね。

ひとりなら渡る赤信号に来て小学生がいて立ち止まる

(新道拓明)

僕も何度か経験のある話なのでもすこく共感しました。狭い道路などで車通りも少ないとつい渡ってしまいたくなるのですが、人の目、特に小さな子の目には見せてはいけない行動。小学生の目により、自分が悪いことをしている自覚があることが浮き彫りになる。良い瞬間の切り取りだと感じました。

母である自信がなく子らが吾を母と呼ぶから母でいられる

(ともえ夕夏)

「観測されることで初めて存在を保証される」という量子論の考え方を思い出した作品。母である自覚はあっても自信はなくて、子供と一緒にゆっくり母親になっていくという感覚に共感を覚えました。認められるというのは生きていく上でとても大事なことです。

信頼の日本品質 MADE IN OSAKAの姉が嫁いで行きます

(ひかがみひかる)

信用が一番なので誰にでも好きというのをオウムはやめた

(衣未(みみ))

酔いどれのまたのお越しをお待ちして撫でられていくタヌキの頭

(薫海里)

「信くんは将来何になりたいの?」第六天魔王です、先生。

(麻数)

今回も僕がミスする前提のもと作られているプランB

(たろりずむ)

誰にでも泣きたい夜はあるのだし Believe in Love 僕は言葉を探す

(田中ましろ)

湯吞さん、アラレちゃん世代ですね！小山さん、それは重症！薫さん、上の句の韻律がとても良きです！次回テーマは「種」。投稿作品を拝読するのを楽しみにしています！

次回テーマ

種

種子 種類 種もみ パン種
 亜種 種子鳥 柿の種 絶
 滅危惧種など。「種」に
 する短文のご投稿 お待ち
 しています！

8/3 (SAT) 締切